

月別アーカイブ【2010年7月】

防府まつり総おどり大会

2010年7月31日



今年も元気よく、総おどりに参加してきました。今年もといっても、去年は豪雨のため中止だったので、今年こそ、元気に防府を盛り上げようとの思いが強かったかも。

中関幼稚園、きんこう保育園、きんこう第二保育園、きんこうデイサービスセンターと一緒に、園児、卒園児、保護者、家族、職員総勢百数十人の大所帯。

審査員席の前では、中関幼稚園夏祭りに出演した保護者の劇をモチーフにエコ・環境を考えるパフォーマンスを披露。

若干蒸し暑い中、多くの方の声援を頂戴して、しんがりを勤め終えた。一次会そして二次会の途中で見事「インパクト賞」を受賞。

全員大変な盛り上がりで万歳と乾杯の繰り返し。

参加を始めて十年以上になると思うが、市内の子どもたちがもっと参加してくれればもっと盛り上がるのといつも思う。沿道には、幼稚園保育園の保護者・家族が多く手を振ってくれた。自分たちのまちは自分たちでも、盛り上げていかないと。

これも「まちづくりは人づくり」に起因しているのである。

仕分けより日本再生を

2010年7月30日

高崎経済大学の八木秀次教授が「日本再生に何が必要か～参院選で見てきたもの」と題して講演された中に『欧州では日本が衰退途上国の筆頭とみられていると紹介した上で「パフォーマンスの事業仕分けで微々たる無駄を削るより、経済・金融政策に力を入れてかせぐことを真剣に考えるべきだ』と訴えたことが産経新聞社のニュースに掲載されていた。要は「仕分けよりも再生を」ということである。

「議員半減よりも防府再生を」上記のタイトルを防府に置き換えればこうなるのではなかろうか？

地価は安くなる一方の防府。市民サービスは具体的な政策はまったくなく、山口、周南と比べれば比べるほど、老人福祉、医療、子育て、経済の活性化は格差が広がる一方である。防府の価値がどんどん落ちているのだ。防府市全体の歳入が数十億落ち込んできていることを考えれば、優先順位で行なわなければならないことは、自ずから見えてくるはず。

「日本が衰退途上国の筆頭」と世界から見られていることを、日本の人は、どのくらいの数の方が考えているのだろうか？

海外から見れば、要は外側から見てみれば、自分のまちのポジションがわかるのである。

一度、比較文化論的にこのまちのことを徹底的に論じてみてはどうだろうか？そうすることで、格差のついたところだけではなく、あらためて本当に素敵なのところも見えてくる。

防府が衰退途上の筆頭と思われたくないからこそ、防府の市長選に出馬した。合併や、私物化などの誹謗中傷論が先行したが、その煙幕にまかれて、真意が見えなくなってくるとしたら、まさにおおごとである。

ちなみに、誹謗中傷とは、事実でないことをとりあげ、つくりあげ、でっちあげて、ところかまわず批難することと私は理解している。



今日は、錦江保育園の1学期反省会と、長男一道の嫁、すうちゃんの誕生日でした！！

孫育て

2010年7月29日

先日、「孫育て」という言葉を初めて聞く。

子育ての支援に長い間関わってきたものとして、ハッとするような言葉である。

きょう、産婦人科医山縣先生、小児科医中山先生の共著である「孫育ての時間」(まごそだてのとき)が手元に届いた。初版は2003年7月であるから、かなり以前からこの言葉は使われていたようだ。

タイトルには～祖父母に贈るはじめての育孫書～と添えてある。

そういえば、昨今の保育園・幼稚園のお迎えは、父母だけではなく祖父母の方のお迎えが随分と増えている。その現状を的確にとらえて、わかりやすく子どもの育ちについても記してある。

祖父母にとって見ると、自分の子育て時期の再履修である。しかも、当時と環境があまりにも違いすぎているので、再確認しておくこともこれからは必要と思われるのだ。

文中に、わかりやすい例があった。

『「赤ちゃんの分まで食べなさい」は止めましょう。』は、粗食が普通だったころの名残り。現代は、栄養豊かな飽食の時代。だから食べ過ぎ、太りすぎに注意ということになるのである。

ということで、きんこう保育園内にある「ほうふ子育て支援センター」では、今年から孫育て講座を開設することとなった。

もうじき、ご案内を配布する予定。3, 4 回シリーズで講師と共に、「孫育て・子育て講座」をオープンし、私自身も講師として、赤ちゃんの素晴らしさをお話したいと思っている。

今、その講師募集中。どなたか、講演をしてあげようという方がいらっしゃったら、ぜひ、ほうふ子育て支援センター(24-1436)まで7月中に連絡下されば幸いです。孫育ての実体験を20分でも30分でも伝えていただければと考えています。

なお、受講希望の方は、ご案内を配布する頃、このブログでも紹介しますので、多くの方のご参加を期待しています。

そんな私も、もうすぐおじいちゃん・・・一緒に孫育てを勉強したいと思う。

ホッとする雨

2010年7月28日

晴天が続いた後の降雨。久しぶりにホッとするような雨であった。

ただ、これ以上ひどくならないことを願う。

午後、中関放課後子ども教室(仮称)第一回運営委員会に出席。

市内では、佐波・牟礼・華城・松崎地区がすでに事業をスタートしており、中関地区においてもスタートさせたいとのこと。

目的は、「放課後の子どもたちの適切な居場所作りとして、多様な体験活動を提供することで、異年齢の児童との出会いや地域の方々とのふれあいを深める。」というものである。

地区社会福祉協議会・老人クラブ・母親クラブ・PTA 等がバックアップしてこの運営にあたることになり、質問や

意見も相次いだ、最終的には「やって見よういや。」という積極的な形で、一回目の会議は終了。

私より、ご年配の方がはるかに多いのだが、意欲的な対応に、子育て、いや孫育てに懸けるおもいのありがたさを感じた。

そういえば、中関は古来より「教育」を大事にしてきたところと聞いて育った。市に合併する前の、旧「中関町」時代の加藤町長さんが、教育に熱心であったということもあり、その伝統が今に続いていると思った。

先輩方の迫力にまけてはいられない。

ちなみに、第二回会議は8月11日午前と決定。

「う〜ん。お盆で少し出席は厳しいかな。」



ちなみに今日、7月28日は父の82回目の誕生日。
家族が全員そろって迎える誕生日は何年ぶりだろうか・・・
一家団欒、良い時間が過ごせたと思う。
(撮影者・わかこ)

二度とない人生だから

2010年7月27日

夏の高校野球、山口県大会が終わった。

とてもよく戦ったが、母校防府高校は延長戦の末惜敗した。

きんこう保育園の卒園児も出場していたこともあり、決勝トーナメントに入ってからには気になっていた。
校歌も二度聞くことができた。

優勝した南陽工業にもエースを始め防府の子どもたちがいたので、残念な思いと新たな希望と複雑な思いが交錯した。

接戦だっただけに余計思いが残るのかもしれない。

おそらく中学校時代にチームメイトや試合をした間柄であったわけで試合後のインタビューを聞きながら、お互いがこの試合を通じてさらに良い出会いになっていく予感がした。

「節」(ふし)。

ある方に言われたことを思い出す。

「竹だけではなく人にも節は大事。あなたが病気にかかった事は一つの節。」

このことは、一度ブログに書いたのだが、今は市長選も私にとっては、大切な節なのである。

高校野球だけではなく、経験を重ねて、「節」をつくる機会が多ければ多いほど素晴らしい人生ではないだろうか。

「二度とない人生だから」こそ、できるならば良い節づくりに励んでいこう。



今日は、幼稚園の一学期の反省会でした。

記念にハイ、ポーズ！！

お見舞い

2010年7月26日

午前中、二人立て続けに、「ブログ見てるよ。」との声。

「最近文章が長くなったね。少しは暇になった？」という声も聞く。

決して暇になったわけではないとは思うのだが、物事をじっくりと考える余裕が多少は戻ってきたのかもしれない。

と、同時にふるさとへの思いが、これからの防府への思いがいつそう募ってきているのだろうと、自分で自分の分析をしている。

午後、知人のお見舞いに行く。手術から日数がたっていたので、大丈夫かなと案じつつ病室に入る。

私自身も長い間入院した時のことを思えば、お見舞いはなかなかタイミングが難しい。

もっとも、体調が万全でないから入院しているわけであり、お見舞いいただく側にとっては、その都合を言えないのである。

病室を出るときに、「少しお見舞いに行くのが早かったかな」と若干自責の念にかられる。

一刻も早い退院を念じています。

平成 21 年 7 月 21 日豪雨災害 慰霊碑除幕式並びに追悼慰霊祭式典

2010 年 7 月 25 日



勝坂自治会主催の慰霊碑除幕式並びに追悼慰霊祭に出席。昨年の豪雨災害時とは打って変わり、抜けるような青空そして猛暑。

100 人をはるかに超える大勢の方々が出席される中、除幕・式辞・追悼の辞・献花そして遺族を代表しての謝辞。

勝坂のミニ集会でお聞きした言葉を思いだす。「避難所での市役所の職員の方はよくやって頂いた。そして多くの方にお世話になったが、でもやさしさが欲しかった。」最後の「やさしさが欲しかった。」は今でも耳に残る言葉である。

配布された資料の中に、〈災害手記からのメッセージ〉が掲載されていた。「嶽の後」(たけのうしろ)と標題がつけてある文中に地元の方々のご苦勞や思いが見事につづってあった。

『二百数十年前にも今回と同じような土砂災害がこの地で起き、その後地名として残ったと思われる「嶽の後」というこの土地で三度このような災害が起こらないことを願わずにはいられない。

『昨年のある日以来聞いていなかった蝉の声を、今年はじっくり聞きたい。』

そのメッセージの終わりの文章である。

じ〜んとくるものを感じたのは私だけであろうか？

式典中、降るような蝉の声であっただけに、当たり前で普通に流れていることのありがたさをあらためて感じる。

激励

2010 年 7 月 24 日

元参議院議員の二木秀夫先生にお会いした。

会話の中で、お父様である二木謙吾先生のことにもふれられた。

山口県議会議長から、宇部市長選挙に出馬され7,000票の違いで

当選できず、その後参議院議員になられたとのこと。

私は、宇部市長選挙に出られたことは全く知らなかったもので、驚きであった。

と、同時に、あえて私のためにそのお話をされたのだ、激励してやろうと

思っていたことに、深く感謝。

そういえば、秀夫先生が参議院議員の頃から、私は、厚生省(当時)や議員会館に陳情に行き出した。一つのエピソードとして、今でも覚えているのは、先生の議員会館でアイスクリームを頂戴したこと。陳情や予算要望で、そのようなものを戴いたことはなかったので、今でも克明に覚えている。

帰宅して、パソコンを開くと総理大臣が銀座の民間保育所見学に行ったことがトップニュース。なぜ、銀座なのか？なぜ、東京なのか？銀座の保育所で何がわかるのか？

パフォーマンスでなければ、本庁の実態を知りたければ、保護者や保育者の思い、願い、また、運営する側も、子どもの育ちや学び、保育の質のレベルアップ、大家族が持っていた子どもを育てていく力が変化した環境での子育て支援を国策として取り組む覚悟がなければ、解決はしない。

真剣にすればするほど、壁は高く厚いのである。本当にご存知だろうか。

「この政権は子育て支援に力を入れている。具体的な実践につなげたい。」と総理コメント。

今まで東京基準で多くの政策を作られる度に、その都度地方は悲鳴をあげてきた。その思いが今年の政権交代につながったといっても過言ではない。

現場を大事にしていきたい。真の激励を国民は待ち望んでいる。

毎朝見てるよ

2010年7月23日



夜のパーティでお会いした方が、「ブログ毎朝見てるよ。楽しみです。」

と、ありがたく嬉しいお話。勇気を頂戴しながらの毎日。

先日、アメリカ、シリコンバレーに住んでいる友人がお墓参りを兼ねて帰国。

アメリカでグリーンカードを取得し、現在は家族で生活している。グリーンカード、いわゆるアメリカに住むという決心をする時は、大変な覚悟がいったという。すごい決断である。

防府のことを思い、一度は防府に帰ってきてこのまちのことを真剣に考えた彼なのだが、またアメリカに渡り、アメリカで暮らしている。

しかし、防府のことは決して忘れていないのが私には仲間としてとても誇らしく感じる。

その彼が防府のことを憂いている、心配してくれているのだ。
外から防府をみるとよくわかるようだ。ましてアメリカから。

「島田さん。市長選残念でした。防府が変わるチャンスだった。変わらなければ防府の明日はないのに。」

立候補以前から、新たなスタイルの企業誘致のことや、これからの方向性をメールでやりとりしていただけに、彼としても自分のふるさただけに残念だったようだ。

多忙な日程のわずかな合間を見て、朝 9 時から喫茶店でアメリカ、ヨーロッパ、そしてアジアの様子をレクチャーしてくれた。

九州のあるところで、彼は事業展開している関係もあり、その関連を防府に何とか持ってきたかったのが、お互いの思いであった。

そのことも含め、多岐にわたる話であったという間に 1 時間が過ぎ、私は神戸行の新幹線に飛び乗った。

「防府のまちの将来性・発展性をこれから多くの方と会って伝えていくこと。防府の人たちが、本当にそのことを理解されたらこのまちは必ず変わる。」

「あのアメリカで最初に試されたのは、数字でも、プレゼンテーションでもなかった。お前のハートはどこにあるのかということだった。」と、彼は言う。

ビジネスのまち、アメリカで一身で頑張っている防府人がいる。
ふるさとで、こころのつながりが持てる仲間がいる私は何という幸せ者であろうと思う。

子育て支援センター幹事会

2010 年 7 月 22 日

午前中、山口での子育て支援センター幹事会出席。

昨年、山口県下関市において開催された第 2 回子育て支援センター全国セミナー代表幹事を務めたこともあり、その報告も兼ねての会議であった。

全国セミナーでは厚生労働省少子化対策室長にも、講演をしていただいたが、厚生労働行政の厳しさ、とりわけ少子化・子育て支援の難しさを感じておられたのが印象的であった。

しかし、このセンター事業は、若いママやパパにおいての反応はすこぶる良く、予算カットの方向とは逆に多くのニーズにどう対応していけばよいか、現場は必死に努力しているのが実情である。

会議の中で、これからは、子育て支援だけではなく「孫育て」も大事だという意見がでる。そういえば、お孫さんの

育て方について質問が増えてきている現状があるように思う。防府市においても、新たな展開の必要性を考えなければ・・・。

治山治水

2010年7月21日

梅雨前線もやっと北上。またまた大変な被害と今後の不安を残してのことだが。

防府市は昨年の災害を踏まえて、きょう7月21日を「市民防災の日」と定めたとのこと。

ただ、定めただけでは意味はなく、何をどう具体的に、対処しているのかを市民にはっきりと伝えることが基本。言葉・掛け声ではなく実質的な対応がなければ、今度は天災から人災になってしまう。

「日本の国は治山治水が基本。」

小学校の時だろうか、先生が口を酸っぱくして話してくれたのを覚えている。

日本の国の特徴からすれば、至極当然のこと。

アメリカ型でもないヨーロッパ型でもない国土の特徴、気候も考慮し、政策は進められるべき。

いいとこどりでなく、全体を比較して、そのまちの風土に合った制度として取り入れる。

あまりにも選挙目当てのアドバルーン的手法が横行しているが、やはり経済や暮らしに目線を置き、土地の様子に応じた政治が求められてくる。

そのための変化や厳しさもあるかもしれないが、そこを理解していく、市民の一人になっていかねばと思う。



今日、天神ピアで「コール唯可」のサマーコンサートが開催。

仏教讃歌を中心に心のつながる歌を歌わせていただきました。

防府市防災危機管理課からのメール

2010年7月20日

昨年の豪雨災害から、ちょうど一年目を迎える明日7月21日に、

犠牲となられた皆様への追悼と地域の復興を願い、

防府市豪雨災害追悼式を執行する旨、

防府市防災危機管理課からメールが入る。

梅雨も明け、いきなり大変な炎天下。この猛暑に昨年の復興の厳しさを思い起こしておられる方も多いことだと思ふ。

しかし、今年も梅雨時の集中豪雨。

避難勧告を発令するほどの豪雨により、多くの方がまたもや大変なご苦勞をされていることに胸が痛む。

さて、以前に保育園の豪雨対応のことを記したが、聞けば聞くほど民間は民間で精いっぱい努力・危機管理をしていることがわかる。

ある老人デイサービス関係者のお話から・・・。

「市内全域にそれぞれの施設が送迎にでかける為、常に安全確保が第一。

よって、豪雨対応は早朝より防府市内各地区のデイサービス施設と河川の状況を伝えあい、送迎可能かどうか確認。

日中も随時連絡をとりあい、ご自宅への送りが可能かどうか確認後出発。」

「利用者様、そして職員スタッフの安全をも確保しながらの仕事なので、河川の氾濫のおそれなどがある時には、送迎中の車中で身体の不自由な利用者様の安全を確保するにはとにかく情報、状況を集めて先に先に対応する。」

老人デイサービスの施設の連絡網、ネットワークはすごい。まさにプロの仕事。ただ、勧告や指示を出すだけでなく、普段からきめ細やかな対応、その情報交換も必要なのでは。

そういえば、先日土曜日保育園の夏祭り。無事に終えたことに感謝であるが、いつも応援に来て下さる OB のお一人は当日欠席。後日理由をお伺いすると、ボランティアで災害復興支援に行っておられたとお聞きした。一人ひとり、本当にすごい方々に囲まれているいろんなことが成り立っていることをあらためて知る。

追伸:

明日は午後8時より天神ピアにて、仏教讃歌コーラス「コール唯可」ミニコンサートが行われます。

災害からちょうど一周年に当たる日に、偲ぶ思いを込めたコーラスをどうぞお聞きください。

パパも子育て

2010年7月19日

昼から、今年12月と9月に出産予定の長男の嫁や娘と共に家族で出産・育児用品を見に行く。市長選出馬記者会見以来、一緒に出かけることもなかったので、本当に久しぶりのことだ。特に、娘のほうは九カ月に入り、まだ何も用意していないので、せめてもの罪滅ぼしと思い同行した。

売り場で説明を聞くが、チャイルドシート・ベビーカーなど、どれ一つをとっても、時代の変化を感じ値段もピンキリ。ブランド化もされており、若い世代にはファッションも関係していると係の方の説明を聞く。

私たちはまだ、なりふりかまわず子育てをした世代だと思っていただけに、驚きが先にたったが、ベビーカーは、男性が育児に参加する時代になってきたこともあり特に背の高さが変化してきたとのこと。

これは私にとってもいい勉強になった。そういえば、スウェーデン・オランダ・デンマーク・フィンランド等研修時、よく目についたことの中に、北欧子育て世代はお父さん同士がベビーカーを押して、買い物をしたり、ティータイムを過ごす姿であった。日本の子育て世代もどうやらそうなりつつあるらしい。

また、イギリスのサッカー選手で有名なベッカム夫妻が使用したことで世界的に流行り出した(日本だけかもしれないが)ベビーカーのメーカーについても話題になる。何といても高いのが印象だ。産まれる時からお金がかかるようになってきているのかもしれないこの国のシステムにも疑問を感じる一日でもあった。

ベクトル

2010年7月18日



淡路島にて、日本ふるさと塾萩原茂裕先生の全国セミナーに参加。

北海道上ノ国工藤町長さんや、今回はすれ違いでお会いできなかったが

鹿島市桑原市長さんや指宿市の前市長さんも参加されていた。

いずれもパフォーマンスではなく、実質的なまちづくりをされた方々

ばかりであり、発言やメッセージにふるさとへの思いや品格を感じる。

次々とまちづくりに人生を懸けてきた人の発表、ダイナミックな討論は、

あっという間に時が過ぎていく。市長選挙後だけに、防府市のこれから

の方向性が気になる。市民目線で市民本意の方向性、地方が選択され

るまちになるには一刻も早い取り組みをしなければ。自ら動かずには

昨日と同じ明日さえこないことを、一人ひとりが感じないと。

指宿市の前市長さんは「政治経験もなく、行政の現場も知らず市長に就任した私にとって指宿も一つの家という考えこそすべての基点」で考えを述べておられたことは、とても印象的であった。16年の任期の間に、最先端の粒子線治療施設や国際的環境問題に取り組み、結果として市民の安全・安心、暮らしに直結した仕事をされた。

あらためて思う。ハートがどこを向いているかがまちの未来を決める。

梅雨明け…そして夏祭り

2010年7月17日



待望の梅雨明け宣言。夕刻からは保育園夏祭り。
OB,役員さんたちのお手伝いで、準備万端。

パラパラと雨がちらつくが、ちょうどよいお湿り。

保育園の子どもたちにとっても、卒園した子どもたちにとっても、楽しみにしている、夏、最初の行事。
参加された方の一人ひとりのふるさととなるよう、心が残っていくような素敵なお祭りとなることを願っている。

多くの方で園庭がいっぱいになる頃、一人のおばあちゃんが、私を呼びとめて下さった。「あなた、昔と一つも変わっていないねえ。障害児の施設に出ていた時の頃からだから、私も年をとったけど、頑張ってるよ。こないだの市長選も応援よかったんよ。話しやすい、相談にも耳を傾けてくれる、あの気持ちが嬉しかったから。」
夏祭りの喧噪のなかで、さわやかで素敵な話をお聞かせ願えたこと、感謝。

おかげさまで、多くの方のご来場を頂戴し、大賑わい。
打ち上げ花火で無事終了。

懇親会の打ち上げも盛り上がるぞ！

母の退院

2010年7月16日

昨日母が退院。

私の市長選前から随分長い間入院していた。いや、してくれていたというべきかも。
入院中の母に当選を伝えたかったが、それは叶わず残念。

お世話になった、病院の方々に心より感謝。
リースで介護用ベットや車いすを準備。介護保険で相当まかなえる。
実際使う側になれば、ありがたい制度である。

母を通してこれから我が家も介護と向かい合うことになるが、上半身はいたって元気であることが幸い。
車いすで移動はスムーズであり、どうぞ多くの皆様方会いに来ていただければ。

遠慮はいりませんので。

豪雨

2010年7月15日



昨年のことがあるので、行政の具体的な対応策がどのようにできているか気になっていた。

今回の豪雨に関して、7月13日早朝、防府市災害対策本部に避難勧告地域の保育園開園について問い合わせると施設長の判断にゆだねるということであった。

避難勧告が発せられると、後は施設長の判断で対応せざるを得ないということである。

ただ、14日からは担当課との連絡が密になり、状況が把握しやすくなったことはありがたかった。

きんこう第二保育園は、きょうで三日目。姉妹園のきんこう保育園で場所を変更して保育を続けている。

保育園は、保護者の方々のことを考えれば、なかなか休園にすることができないのだ。

ただ、バックアップの場所があることは、幸いであった。

また昨日、市内小中学校の休校は報道されていたが保育園幼稚園の情報は全く報道されていない。
懸命に子育ての支援に関わっているのに何故だろうかと不思議に思う。

少子化対策、ワークライフバランス等と事あるごとには話題になるが、行政も報道もこのような時にこそ、もう少し意識をして頂き、社会の中の役目の一つになっていることを多くの方々に理解してもらえればと思う。

夕刻、薄日が射してきた。避難勧告は発令されたままであるが、緑の木々の中を傘をささずにお迎えに来られる保護者の姿を拝見すると心底ホッとする。

避難指示

2010年7月14日

昨日からの豪雨。避難勧告から避難指示に。
ストレスが極度に高まる状況となる。

昼前に、雨は小康状態となったが、夜間にまた降るといふ。
昨日は公民館等で250名の方々が一夜を過ごされたときく。
被災地の方々の、いろいろな声や、状況の凄まじさを見聞きしているだけに、思いが募る。

保育園のお迎えがいつもより早い。保護者の方も帰りを急がれてのことだろう。
子どもたちの夏を待ちわびている姿がよくわかる。

避難勧告

2010年7月13日

降りしきる雨により避難勧告が発令される。
きんこう第二保育園には、すでに数人の園児が登園。

市の対策本部に休園するかどうかの確認。園の対応にゆだねる旨の回答。

急きょ、避難勧告が出ていない、きんこう保育園に保育する場所を変更。

保護者の協力もあり、何とか無事に保育をすることができた。近くの小学校は、休校になったようだが、保育園は、なかなか園を閉めることは難しい。

ニュースで防府の雨のことが放送される。
食い入るように見ていると、すでに、避難場所に移っておられる方も。

まだ、昨年の爪痕が完全復旧されていないだけに、不安も相当なものであるはず。

今は、少しでも早く雨が上がることを願うばかりである。

パンドラの箱

2010年7月12日

昨日、遅くに帰宅中、タクシーの運転手さんが、「民主党は思った以上に良くないねえ。消費税というパンドラの箱を開けたからねえ。」と、選挙情勢と分析をして下さった。

市民の方々の本音を知っている、地方の経済の厳しさを実感されている方の思いであった。

しかし「パンドラの箱」とはよく言ったものだ。

「ゼウスがパンドラに持たせた、あらゆる災いの詰まった箱(本来は壺)。彼女が地上に着いたとき好奇心から開けたところ、すべての災いが地上に飛び出したが、急いでふたをしたので希望だけが残ったという」(大辞泉)
ギリシャ神話で語られるこの言葉は、いろいろな説があるが、開けてはいけないものを開けてしまい、あわてて閉めたのだが、希望だけは箱の中に残されたままになったというものである。

菅総理は、消費税10%と思いきった発言をしたのだが、情勢不利とみるとあわててふたをしてしまった。「希望」を取り残してふたをし、まさにパンドラの箱になってしまったのである。

財政再建・暮らし再建のために身を切るような行革や無駄を排除することを期待して昨年の総選挙は勝利をしたはず。政権交代から八カ月で総理交代。しかし、その間、政治と金にまつわる多くのことがありすぎた。すでに国民の信頼感をなくしていたのだ。そこに気づかずに箱を開けてしまったために「あわててふたをする」ことにつながったのである。

きちんと、行革を訴えたうえで、将来像を示し、消費税に言及すれば「あわててふたをする」ことなく少なくとも「希望」は残ったのではないだろうか。

私もそうである。「信頼感」を大事にした仕事をしてきたつもりではあるが、いっそう信頼感を持っていただけるよう、希望につながるよう努めていくことが、自分自身に問われている。

しかし、最近の選挙、終わった後で、人々の笑顔が少ないのが気になるのは私だけであろうか。

時代

2010年7月11日

「めぐるめぐるよ、時代はめぐる。別れと出会いをくり返し、今日は倒れた旅人たちも生まれ変わって歩き出すよ。」

山口選挙区岸さんの当確が出た後、友達が中島みゆきさんの「時代」を歌ってくれた。

胸に響いた。素敵なメッセージであった。

しばらくして、参議院選挙の結果がほぼ出そろった。地方経済の現状の厳しさをもってすれば、目的もなく、きちんとした将来像を描かずに、消費税 10%に言及したことは国民に厳しいものと受け取られた。

「時代」の歌詞のように「めぐるめぐるよ時代はめぐる」こと、ふるさと防府への思いを再確認。

第9回幼稚園夏まつり

2010年7月10日



こんな夏祭り をかつて経験したことがあろうか？子どもたちの期待あふれた笑顔はもちろんのこと、サポートの役員さんであるお父さんお母さんたちの前向きな姿。自ら夏祭り実行委員会を立ち上げ、企画をし、子どもたちも保護者も、共に思い出を造ろうとした夏祭り。自らが選択をし、決定し、自己責任のもと実行する。まさに親子共々の自立である。私の目指していた教育のスタイルがこれである。

「クリーン戦隊エコレンジャー」という題目の保護者の劇団、自らが楽しみながらも環境問題をモチーフにした内容は圧巻であった。

再度言い

たい。こんな夏祭り をかつて経験したことがあろうか？まちづくりの原点は教育、人づくりにあることを再確認。打ち上げは、凄かった。百人以上の全員が弾けた。

私も弾けた。

4年後、6年後

2010年7月9日

「4年後・6年後」

「先生、4年後もがんばってよ。」もらったカブトムシをクラスごとに入れ替えている最中、お迎えのお母さんから力強い声。「私ら、子どもが卒園しても応援するからね。」とさらに励ましの言葉。現在実施されている参議院選挙は任期が6年間。一般的な選挙は4年間の任期である。

子どもたちのこと、福祉や教育のこと、今、地方ほど根本的に新たな目線が大事なはず。若い世代、子育て世代はそこに直面しているのだが。声なき声をくみ取り、形にしていってこそ、本当のふるさと行政、本当の現場主義。

市長公約の一つである「市議会議員定数半減」は、持ち越しになったようである。今、決定しても約3年後からの実施。その3年間でどうめようとするのか、具体的政策を持ち合わすことが、地方の現状を見据えた本当に役に立つ誠の政治家といえるのだろう。

市長選公約と防府市議会

2010年7月8日



今、防府市議会開会中である。ところで、何をどう審議されているのか、全くわからない。昨晚も友達との間で遅くまでそのことが、話題になった。市長選が終わり、最初の市議会。これからの防府の方向性や公約の実現に向けて市の執行部と議会とのやりとりがあるはずなのに、伝わってこないのだ。

これから防府がどう変わるか、近未来を託した選挙であったはずなのに。ローカルのメディアを通して、後日活字で知ることができるのだが。やはり、せめてインターネットなどでライブ中継されると市民の関心も高まるはずなのに。高まればいい意見が集まると思うのだが。

的確な情報公開がなされないまま、現状での審議会やアンケートで、真の民意は問えない。

ところで、きょうはロータリークラブの例会日。屋前に葬儀があり、12時30分からの例会に間に合うように一所懸命帰宅。

ところが、出産で里帰り中の娘が「お父さん、カレー食べる？」の一言で、すっかり例会を忘れ、何年かぶりに娘と二人で昼食。

二時前に例会を思いだしたが時すでに遅し。ロータリーのみなさま。大変失礼しました。

夏??

2010年7月7日



「梅雨の晴れ間」といわれるような、お天気です。参議院の候補者もTシャツ、白のパンツスタイルで汗だく。

海は、朝靄(もや)が立ち視界不良、こんなに晴れているのと思っていたら、「風がないから靄が逃げん。」と漁師さんの声。いくら晴れていても、夏のような感じでもまだ「梅雨」なんだろう。

やはり、「風」が大事。いつの時代も風が流れを変えてきた。しかし、流れは変えたが、流れる水は変わらなかった。みんな、何回も風を読み間違えた。

これで変わる、今度こそ変わる、と思いつつ「裏切られた感」が強い。

昨日、「防府は参議院選挙の感じがしない。」とあるマスコミ関係者。先日の市長選の影響か？昨年の衆議院選の影響か？政権交代した結果の影響か？

私にもよくわからない。笑顔が少ない、元気が見えない、などの声を聞く防府。おかしな「無風」状態に陥ってなければ良いが。

さて、今日は7月7日、七夕。中関幼稚園の53回目の創立記念日である。1期生として入園した私もおかげさまで55歳。

これからも子育ての拠点として支援のできる幼稚園を目指すことを願う。

中浦の海に行く

2010年7月6日



10年前頃でしょうか。地域を訪ねて歩き、地域を知り、地域から学ぶことを幼児教育プログラムに入れようとしていた時のことです。気がつくやうに、中関の地域で子どもたちが楽しむことのできる海辺は、ほとんどなくなっていた。私が幼いころは、あちこちで、海水浴や貝を採ることができていたのだが、残っていたのは、中浦の海岸だけ。

一昨年からは、中浦の方々の協力もあり、子どもたちが一緒に貝殻を拾ったり、お話を聞く機会を持つことができるようになってきた。きょうも、さわやかに海を渡ってくる風の中、日射しを受けながら、自然と親しむことができた。

海辺に行く途中、知り合いのおじさんとバッタリ会い、ふるさとにかけける情熱を話して下さった。

「数年前から、外のお役は全部辞めて、今は、中浦のために一生懸命お返しをしよる。それまでは、地元に迷惑をかけてやりたいことをやらしてもらったから、これからは恩返し。」

笑顔がいい。すべてをやり終えて、なお余力を地域の為に。その気持ちが胸を打つ。

「ひょっとして、余力ではなくて、今が人生の中で、一番やりたいことかもしれない。」そう思いつつ、子どもたちが遊んでいる海辺に行く。

十数人の地域の方にお世話になりながら、思い思いにふるさとの自然を味わっている。本当にありがたい。

「昨年より、砂が増えましたね。前より、浜がきれいになり、これなら子どもたちも泳ぐことができるのでは？」とお聞きすると、「山があり、海がある。このふるさとを子どもたちに。子どもがおる海はええのう。わしらが、交代で番をしちよる時は泳いでええようにしよう。」とまたまた素敵な返事が返ってくる。

このふるさとは、良いふるさとである。素敵な先輩が多い。自分のことではなくて、他の為に、次世代に思いをつなげようとする先輩方の思いを受け止めたい。

確実に、素敵な先輩が増えていることを実感。

ありがたい手紙

2010年7月5日



ありがたいお手紙をまたまた頂戴しました。

「長寿社会を迎え、一番社会で活躍すべき年齢層が大変窮屈な思いをしている今、どうにかして、皆の為に問題を解決したいと立ち上がって下さった事に、深い感謝と……。」

私のこの度の立候補の思いは、「合併」でもなく「市議会議員半減」でもありませんでした。純粹に、日本の一つの地域がこれからやっていけるのか、やっていけるとすればどの方向が良いのかを問うた選挙でした。

「一番厳しい道」を選択したとある同級生が私に言ったことがあります。自分のことだけ考えれば、他の道もあつ

たと思います。しかし、防府の実態経済は、合併や市議会議員半減など制度上のこと以上に、厳しいものがあるのではないのでしょうか。その厳しさを感じながら生活している世代のこともあり、自分を批判にさらず道を選択し、このまちの将来を問うたのです。

現在の参議院選挙もこの国の将来像が本来の争点にならなければ、選挙の意味はありません。

私は、本来選挙というものは、将来像の選択であり、しがらみや誹謗中傷の選挙で勝利しても、運営は厳しく、まちや社会は決して良くなって行かないことを、そろそろ一人ひとりが気づくことが必要な時にきたと思います。

選挙のあり方、仕方、言動が、その後のことも決定づけることになっているのです。

昨日の一斉清掃で、道のあちこちに積んでいた草が夕方にはきれいになっていました。一週間以内には、担当業者の方が集められると聞いていたので、素早く対応していただいたことに、気持ちのよさと共に感謝です。

一斉清掃

2010年7月4日



地区の一斉清掃があった。ロータリークラブから、佐波川一斉清掃の参加要請もあったが、地元の草刈りに参加。

雨を含んだ草は、結構重く案外力がいったが、大粒の汗は気持ちよかった。

「元気かね」「がんばりいよ」などの声かけも頂戴する中、小学生が網を持って山のほうに。「どこにいくの?」と言うと「トンボ採りに行く」とちょっと思いがけない返事。でも坂道をどんどん走って上がっていくその後ろ姿に何とも

いえない爽快感を感じる。

自分の幼き時と姿がダブリながらも、最近山に入る子どもを本当にみかけなくなったと思う。異年齢の子どもたちが、集団で山に入り「基地」と呼んでいた自分たちの居場所を作り、春夏秋冬そこで過ごしたものである。

その経験を通して、遊びの中で多くのことを学んできた。先輩後輩との人間関係から始まって、のこぎり、金づち、鉋の使い方を知り、安全なところ、危険なところ、

いざという時の対処の仕方、いわゆる危機感まで、身につけていたのではないだろうか？

「経験」を通しての学びはいつになっても大事な宝物である。

うれしい便り

2010年7月3日

保育園の役員さんたちとの懇親会を終え、10時前帰宅。

帰ると家内が素敵なお便りが届いていると、一枚のハガキを差し出してくれました。

市長選挙の時にお世話になった奥様からでしたが、内容は「この度は、私たちの暮らしのために日夜、歩き、走り回って頂き本当にありがたい気持ちでいっぱいです。……。これからは、もっと市政に関心を持っていきたいと思います。」

今回の出馬に関して、そして選挙戦に入っても誹謗中傷や、真意を理解しようとされない方がいらっしたことを思い、あらためてこのようなお手紙を頂戴したことに、家内共々、感謝の気持ちで一杯になりました。

このふるさとの「今の暮らし・これからの生活」のために捨て身の覚悟で臨んだ思いを受け止めてもらったこと、うれしい限りでした。

気持ちや心のつながった方々との輪をこれからも大事にしていこうと思うのです。

みなさま、これからもよろしく願いいたします。

若竹会

2010年7月2日



約50年ほどの歴史を持つ若竹会が中関校区にあります。

会の起こりは、小学校の修学旅行に行けない児童のバックアップが目的でした。

今では、中関小学校に図書を寄付するように、会の趣旨は変わっていますが、有志が年に数回集まり、思い思いのことを話して、親睦を深めることも大事な目的だと思います。

今日夕刻から9時過ぎまで学校図書に寄付の報告を兼ねて親睦を深めてきました。子どもたちの笑顔がたえないまちづくり、半世紀も前から活動をしていた先輩に敬意を払うばかりです。

グリコのおまけが「木のおもちゃ」に！

2010年7月1日



90年近くの歴史をもつ「グリコのおもちゃ」が今年3月に生まれ変わり注目されている。お菓子についているおもちゃに定番のプラスチック製を止めて、素材に木を使用したのが特徴とのこと。

ほうふ子どもの城「トイライブラリー」館長としての私にとっては、とてもありがたいニュースである。プラスチックから木のおもちゃへの変換は手間、コストがかかるものだが、「ぬくもり」を大事し、安全性にも工夫をした結果売り上げは70%増となっているそうである。

私どものおもちゃライブラリーは「木のおもちゃ」が基本で常時200点以上用意されている。毎週土曜日午前10時から11時30分まで開館。年間2000人を超える来館者があり、思い思いに時を過ごしたり、100円でおもちゃ2点まで、次の土曜日まで借りて帰られる方もいる。

「木のおもちゃは子どもから熱(あたたかさ)を奪わないのです。プラスチックのおもちゃは、子どもから熱を奪ってしまいます。私たちは、子どものたちの手のぬくもりを大事にしたいのです。」おもちゃライブラリー開館当時の若いママやパパへの私たちのメッセージです。

きょう、初めて園庭開放に来られたお母さんが、私の顔を見て、「アーツ」と声を上げられる。その後、スタッフに「市議員選挙だったですかねえ、お顔見ました。」

市長選に出馬した私は、少し軽いショックを受けるが、おもちゃライブラリーにご案内して、親子で遊んでもらう。木のおもちゃの説明や子どもたちに、なぜおもちゃが必要か説明する。

一人のお母さんが柳井市で保育士をされており、自分の経験を通して、きんこう保育園の園庭や環境の素晴らしさをお話ししてくださった。ノルディック デモクラシーを根幹に叩き込んでいる私には、十数年かかって取り組んできたことを理解してもらったようで、素直にうれしかった。

その時をごまかすのではなく、コツコツと誠実に物事を進めていけば、本物を求めていけば、わかってもらえることを再確認。

「言うこととすることを一致させたい。」この理想を現実にしていくことが、私の使命である。